

業務部速報



No. 66

発行 25. 11. 6

JR東労組 業務部

申6号 2025年度年末手当に関する申し入れ No.2

■組合の主な主張		□会社の主な回答	
【4】 運賃改定も含め、中長期を見るべきだ！			
■待遇改善と営業費用増を運賃改定の増収で賄うことは、運賃改定をお願いするお客さまとの約束だ。 運賃改定の増収の中に待遇改善は入っているのか。 ■運賃改定も含め中長期の認識として持つべきだ。		□入っている。当社のみならず、グループ会社、取引先含めである。 □待遇改善はもちろんだが、設備投資等、様々な分野に振り分ける。その中で全体のバランスを見て、会社の持続的な成長と社員家族の幸福の実現をしていく考えだ。	
【5】 現在の経営状況は絶好調だ！			
■上半期鉄道営業収入は対前年104.7%と好調であった。10月の状況はどうか。		□対前年では103.4%程である。	
■GWもお盆もコロナ前を上回ったと認識している。		□多くのお客様にご利用いただいた。それが第2四半期決算に現れている。	
■運輸収入について、会社は第1回交渉で「定期収入は依然としてコロナ前の水準に遠く及ばない」と述べられていたが、2028年の鉄道運輸収入の目標値は過去最高を見込んでいる。定期はコロナ前に及ばないが、定期外の収入の確保により、カバーできる。定期収入を出さない理由にすべきではない。		□定期収入だけを取り上げる考えはない。様々な要素の一つである。	
■インバウンドは、昨年が167億円で過去最高であった。今年は180億円と過去最高を更新している。インバウンド収入は絶好調だと認識しているがどうか。		□円安等の影響もあり順調に増えているが、当社エリアのご利用はさらに伸ばさないといけない。	
【6】 「たった0.1ヶ月」では納得できない！			
■夏季手当の回答は昨年からたった0.1ヶ月増。アンケートで満足と答えたのは4.3%だ。昨年の年末手当もたった0.1ヶ月増だった。様々議論したが、昨年、今年のようにたった0.1ヶ月増に留まったら納得いかない。		□たった0.1ヶ月というが、この間様々な状況を踏まえ、その時々のできる最大の支給をしてきた。この間、平均支給額は過去最高水準となっている。支給月数も重要だが、平均支給額もすごく重要な要素だ。そのようなことも踏まえて検討する。	
【7】 生産性の向上の実感に賃金が追い付いていない！			
■第1回交渉で「構造改革を推進し、当社が成長することができたのは社員一丸となった取り組みの成果」と述べられたが、まさにその通りだ。2018年と比べると、社員数は1万人減り、人件費は150億円も減っている。しかし、営業収益は120億円増加している。生産性の向上の実感に賃金が追い付いていない。		□社員の皆さんの取り組みを踏まえ、様々な業績、社会動向、経済動向、当社を取り巻く環境等を踏まえ検討し回答する。	
【8】 株主配当増額！社員にも還元すべきだ！			
■株主配当が業績上方修正を踏まえ、62円から70円に増配された。昨年は通期60円で680億円の配当金であったが794億円になり100億円以上増える。100億円を年末手当の原資にした場合、約0.6ヶ月分となる。社員もステークホルダーだ。社員にも業績の上方修正を踏まえた還元を行って頂きたい。		□株主の皆さま、お客様、社員の皆さま、様々な中でバランスを取り、年末手当も議論を重ね検討し判断する。	

会社は職場の努力に報いるべきだ！